

# 令和3年度事業報告

社会福祉法人 三田市社会福祉協議会

# 総務課 安定した組織運営をめざします

## 部会委員会：理事・評議員の役員一斉改選

理事2年の任期、評議員4年の任期が満了し令和3年度は役員一斉改選が行われます。特定非営利活動法人や株式会社など多様な経営主体による社会福祉サービスへの参加が進むとともに、社会福祉のニーズも多様化・複雑化してきています。三田市の地域福祉の担い手となるよう組織体制(ガバナンス)の強化、透明性の確保、財務規律の強化に努めます。

### 重点項目1

#### 役員報酬、改選にかかる費用

	予算	執行状況
事業費	3,646,000 円	3,788,100 円
財源	477,000 円	477,000 円
	3,169,000 円	3,311,100 円

## 企画調査広報

### オンラインでの環境整備および広報媒体の充実

新型コロナウイルスの影響もあり会議、研修会などオンライン化が進んでいます。社協でも内部の会議および研修会などオンラインに向けた環境整備に取り組みます。また、さんだ社協だけでなく他の広報媒体(ホームページ、SNS)と連動しながら幅広い啓発に努めます。

### 重点項目2

#### 広報費用

	予算	執行状況
事業費	6,810,000 円	6,004,779 円
財源	5,495,000 円	5,707,700 円
	30,000 円	0 円
	1,285,000 円	297,079 円

### (1) 成果

6月23日の定時評議員会・理事会において、大澤洋一会長をはじめとする現役員体制が決定しました。また、市行政から常務理事の派遣がなくなっただけで、事務局長が常務理事を兼務する組織形態をとり、公共性の高い社協事業の日常的な執行管理と維持に務めました。コロナ禍の影響を受け、初回を書面評決とした以降は概ね月1回の理事会を継続開催しました。

### (2) 課題と次年度に向けて

地域福祉推進計画は、だれもが「自分らしい暮らし」を実現できる地域にするために、住民や専門職・関係機関、すべての人が何をするか、自分たちでできることは何かを考え、みんなで取り組みをするための(行動・活動)計画です。策定委員はじめ住民のみならずとも第3次地域福祉推進計画策定に向けて取り組んでいきます。あわせて、財務規律の強化もねらいとした財政計画策定に向けて取り組みます。

### (1) 成果

YouTube 動画視聴による職員研修(安全運転研修、人権研修、災害関連制度研修)、内部会議・ミーティングでオンライン会議の導入、Google フォームでの安否確認シミュレーションを実施しました。また、Facebook・LINE の広報媒体を積極的に活用し、反応が増加傾向にあります。

### (2) 課題と次年度に向けて

オンライン環境整備は自然災害発生時の業務運営にも生かされることから継続します。また、広報についてはホームページのリニューアルを行い、紙媒体と SNS により幅広い世代に向けた啓発に取り組みます。

オンライン化を進める反面、研修後アンケート等で、「職員間で直接顔を見て話す機会が少ない」という意見があります。あらためて組織内の連帯感が高められるように、対面での全体研修の再開や、職場交流研修の検討、また法人内広報(事務局だより・安全衛生委員会ニュース)に取り組みます。

## 総合福祉保健センター管理運営

### 第4期総合福祉保健センター指定管理業務（R3～R7 5か年）

#### 重点項目3

新型コロナウイルスの関係では、貸館利用制限等を設けることとなり、ご利用者様にはご不便をおかけしています。建物入り口にサーモグラフィーの設置をはじめ消毒・換気など感染拡大防止のため対策を徹底してまいります。

平成8年に建設され25年目になり、指定管理業務の受託は第4期がスタート16年目を迎えます。一昨年度は、各貸館の利便向上となるよう大規模改修が行われましたが、安心してご利用いただけるよう管理運営をいたします。

また、当日申請受付が可能になり、窓口時間が9時～21時まで拡大されます。それに伴う人員を増員します。LINE Payでの支払いも可能となっております。

#### 管理運営費用

	予算	執行状況
事業費	60,282,000円	61,471,240円
財		
源		
受託金	55,628,000円	55,628,100円
利用料	3,500,000円	5,607,880円
前期末支払資金	1,154,000円	235,260円

#### (1) 成果

昨年度に引き続き、閉館時間の短縮や定員制限に加え、来館者用駐車場の新型コロナウイルスワクチン接種会場設置や会議室のワクチン関連事務所使用により、貸室の提供は制限されたものになりました。感染予防については、来館者・貸館利用者の皆さまにも協力依頼を行い、入館時の消毒・検温を徹底しました。

#### (2) 課題と次年度に向けて

感染拡大収束の兆しが見えない中、職員をはじめ来館者・貸館利用者の皆さまへの感染予防対策の徹底は継続して行います。

福祉・健康増進の拠点となるセンターとして、障害者やボランティアの活動を多くの市民に知ってもらうように、展示ケースやギャラリ等の活用と、あわせてSNS等でも情報を発信してまいります。

センターの築年数とともに修繕箇所が増え、また日常的な維持管理のためのメンテナンスも必要となっております。引き続き、来館者が安心して利用できるセンター運営にしっかりと取り組みます。

LINE Payの支払いについては廃止となりましたが、タブレットを導入し多様な問い合わせに柔軟に対応できるように取り組みます。

#### 職員行動規範（平成30年4月見直し）

わたしたちは心をあわせ、住民主体の地域福祉を推進するため、一人ひとりが、こだわりを大切に行動力を持ち、ともに考え頼られる社協職員を目指します。

## 柔軟な事業運営ができる組織基盤への取り組み

新型コロナウイルス感染症により、当会だけでなく社会全体が従来通りの活動が行えない状況の中で、新たな方法を取り入れながら組織運営と各事業の実施を通して地域福祉の推進をすすめました。

### 1. 事業運営と組織の基盤づくり

- ◆法人運営事業にかかわる会議の開催  
正副会長会:15回  
理事会 :10回、書面評決1回  
評議員会 :3回(定時含む)、書面評決1回  
評議員選任・解任委員会:1回
- ◆事業会計監査の実施  
令和2年度 :5月26日(水) 13:00～15:00  
令和3年度上半期:11月29日(月)13:00～15:00

### 3. 役員等研修会等の実施

- ◆ 地域福祉推進計画関連研修兼役員研修(令和3年11月30日)  
『包括的な支援体制の構築・重層的支援体制整備について』  
講師 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部部长 戸田達男氏  
  
◀自分自身あるいは周囲の人が感じる「どこに相談していいのかわからない」「どう(支援)すればいいのかわからない」事柄などについて話し合いました。
- ◆ 地域福祉推進計画関連研修(令和4年3月22日)  
『地域福祉推進における地域福祉推進計画・社協の役割について』  
講師 関西学院大学 人間福祉学部教授 藤井 博志氏



- ◆オンライン研修や動画を活用した研修の取り組み  
コロナ禍で感染予防に向けた取組みとして、安全運転研修、人権研修はYouTube 動画視聴による研修方法を取り入れ実施しました。

◀災害の手引きの見直しや、災害関連制度研修用動画の作成、緊急時の組織内連絡体制構築のためにGoogle フォームを活用した安否確認シミュレーションを実施しました。



◀第3次地域福祉推進計画策定委員、理事、職員が参加し、地域福祉推進における重要な支えあい・見守り活動について話し合い、住民協議体としての役割について、再確認する機会となりました。

## 4. 福祉情報の発信ツール＝さんだ社協だより

「good(ぐっと)身近な福祉の情報お届け便＝さんだ社協だより」を偶数月は8ページ、奇数月は4ページで発行しました。

地域の活動情報や、相談窓口紹介、地域貢献に取り組む事業所の紹介などをはじめ、福祉に関心を持ってもらえるように情報発信しました。

発行部数:47,650部

発行方法:全戸ポスティング配布

▶10月号表紙では募金百貨店プロジェクトに協力している野球チームに協力していただきました。



## 5. フェイスブックでの情報発信

各部署による地域活動や事業内容など写真や動画とともにタイムリーな情報発信に努めました。

投稿235件(前年度222件)リーチ件数39,866件(前年度38,846件)※リーチ＝ページのコンテンツを見たユーザー数



▶生活支援活動グループの様子



▶デイサービスでの活動紹介



## 6. LINE 公式アカウントでの情報発信

より多くの住民の皆さまへ福祉の情報発信ができるよう、SNS 国内シェア最大の LINE を導入し、幅広く情報を届けるための取り組みを進め広報・啓発活動のさらなる充実を図りました。

友だち登録者:193人(割合)

女性 59.8% 男性 40.2%

※前年度友だち登録者: 93人(割合)

女性 66% 男性 34%

右のQRコードから友だち追加できます。

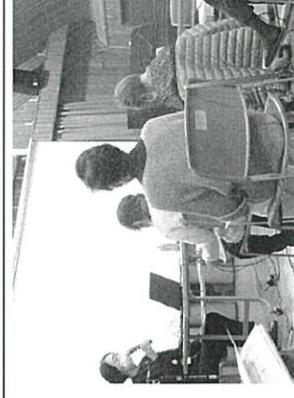


## 7. 出張ふくし教室の開催

社協の多様な職種、事業、人材を活用した講座メニューを設け、福祉を身近に学ぶ機会として職員が地域に出向きました。併せて社協活動への理解を広める機会ともなりました。

全16回 延べ343人  
(前年度 22回延べ417人)

▶「地域の見守りについて」をテーマに、民生委員・児童委員と民生・児童協力委員のみなさまと実施しました。



▶成年後見制度について



### 8. 三田市総合福祉保健センター指定管理運営事業

◆第4期5年間の初年度をむかえ、来館者サービスの向上、経費の節減に取り組みとともに、新型コロナウイルス感染症対策に努めました。

◆感染予防対策への取り組み

コロナ禍でも安心して総合福祉保健センターを利用できるように、感染予防対策を実施を継続しました。また、三密の環境を作らないよう注意喚起や定期的な換気アウンス等を行い、職員の体調管理やマスク着用の徹底を行い、来館者の方と職員がともに安心で安全に利用できるように取り組みました。

◆総合福祉保健センターの利用状況

昨年度よりコロナ禍による臨時休館や定員の制限、新型コロナウイルスワクチン接種会場設置など、様々な利用制限を設けての運営となりましたが、前年度に比べ活動が再開されており貸館件数は増加しました。利用料については市ワクチン接種担当部署の貸館スペース使用により貸室利用が継続的にあつたため増加しました。

【貸館件数】5,493件(前年度実績 3,242件)

【利用人数】94,340名(前年度実績 46,234名)

【利用料】5,607,880円(前年度実績 3,090,480円)



▲ギャラリィでのイベント情報をFacebookで発信しています。



▲展示ケースを障害者施設・団体やボランティア団体の活動展示により活動を知るきっかけの場として活用しています

### 9. 社協会費

三田の地域福祉推進に向けて、社協が身近な相談先として浸透し、住民の参加を得ながら活動を進めているように、広報・啓発活動等に注力しながら、会費への賛同を募りました。一般会費は、三田市区・自治会連合会の賛同を得て、区・自治会へ協力を依頼しました。今後、個人や法人等に向けても、さまざまなツールを活用しながら、社協への認識を深めてもらえる機会が提供できるよう検討を重ねます。

種類	令和3年度	
	協力件数	実績額
一般会費 1世帯200円	区・自治会 (令和2年度 173件 174件)	4,906,900円 (令和2年度 4,743,550円)
賛助会費 (個人対象) 1口1,000円	244件 (令和2年度 236件)	364,800円 (令和2年度 312,000円)
特別会員 (法人等対象) 1口5,000円	131件 (令和2年度 130件)	913,000円 (令和2年度 902,000円)
合計		6,184,700円 (令和2年度 5,957,550円)

### 10. 三田市社会福祉協議会会長表彰

新型コロナウイルス感染拡大防止のため三田市社会福祉大会と表彰式典の開催は中止となりました。地域福祉活動に長年取り組まれている個人・団体へ感謝の意を表すことを通じて、地域福祉のさらなる推進をめざすことを目的として被表彰者への表彰状をお届けさせていただきました。

福祉功労者 54名  
社会福祉事業功労者 22名  
福祉功労団体 4団体

## 11. 善意銀行事業

みなさまから善意の寄付(金銭や物品)をお預かりし、必要とされている方々や福祉事業等へ払い出しを行いました。

### 【預託】

金銭預託 146 件 3,469,416 円(内 7 件が 10 万円を超える寄付)  
 ※前年度金銭預託 111 件 3,428,281 円  
 (さっちゃんのまごころお福分けネットワーク 724,358 円含む)  
 物品預託 37 件 マスク、肌着、手作り品、タオル、介護用品等  
 その他【さっちゃんのまごころお福分けネットワーク】

### 【払出】

物品払出  
 払出件数 867 件  
 (112 件+さっちゃんのまごころお福分けネットワーク 755 件)  
 払出先 市内福祉施設・団体等、ひとり親世帯、就学援助世帯等  
 内容 手作り品 7 件、介護用品 12 件、その他 93 件  
 さっちゃんのまごころお福分けネットワーク (P10 掲載)

### 払出事業の実施

- (ア) 高齢者支援関連事業(在宅高齢者介護家族の会への助成)
- (イ) 障害者・セルフヘルプグループ支援関連事業  
(障害者団体への助成)
- (ウ) 子育て支援関連事業(子育てサロン・グループへの支援)
- (エ) 母子・父子支援関連事業(母子・父子関連団体への助成)
- (オ) 福祉啓発関連事業(社協だより発行)
- (カ) 低所得者支援事業(修学旅行一部助成事業)



▲市内店舗・事業所にご協力いただき  
 善意の箱設置(社協だより 6 月号特集  
 記事)



▲有馬高等学校教育友会・生徒会より車  
 いすの寄贈



▲生活協同組合コープこうべ協同購入センター丹波様より、協同購入の利用者対象  
 の宅配フードドライブ食材を多数寄贈いただき、社協を通じて子ども食堂へお渡し  
 しました



## 12. 災害支援関連

令和3年7月の大雨により、静岡県熱海市をはじめ全国各地で洪水災害などによる人的及び家屋への甚大な被害が発生したことを受け、市と連携し自然災害発生に係る義援金窓口を設置しました。

- ◆ 令和3年大雨災害義援金(令和3年7月豪雨災害義援金)  
 設置場所: 市庁舎、総合福祉保健センター、市民センター等12か所  
 金額: 52,681円(累計)  
 設置期間: 令和3年7月30日～令和3年12月28日  
 ※令和3年10月1日より「令和3年大雨災害義援金」に改称

## 13. 福祉バス助成事業

市内の福祉保健団体などが、団体の育成や地域内の交流のきっかけづくり(市内の通いの場など)実施時に借り上げるバス等の費用の一部を助成することを通して、地域福祉の向上を支援しています。

今年度も緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による外出自粛要請を受け申請件数・助成額は例年に比べ減少しました。

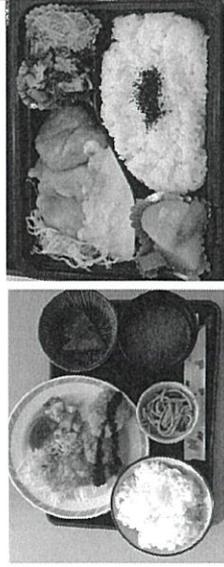
- 助成件数 13件 (申請20件の内7件感染予防のため中止)
- 助成額 581,100円(実施分)
- 前年度助成件数 9件(申請10件の内1件感染予防のため中止)
- 助成額 381,400円

## 14. 喫茶室運営事業(喫茶業務・デイ昼食調理業務)

テイクアウト用のデザートや飲み物の販売数は増加しましたが、売上高は臨時休業の影響や売上単価の減少により低下しました。

- \*まん延防止等重点措置、緊急事態宣言、その後の館内利用制限に伴い、4月26日～10月31日、1月31日～3月22日の期間は喫茶休業し弁当販売とデイサービス調理のみ稼働
- \*11月1日～3月31日の営業日は営業時間10:00～15:00

- 【販売数】19,450件
- ※前年度実績 16,275件
- 【売上高】13,891,403円
- ※前年度実績 14,583,545円



喫茶室「ポポロ」メニュー ▶



## お食事

- サービストラランチ 650円  
 ランチ券もあります(10枚綴り6,000円)
- お弁当 500円
- 食後のコーヒー 150円
- カレー(サラダ付) 550円
- ピラフ(サラダ付) 550円
- ナポリタン(サラダ付) 550円
- さつとうどん 400円
- わかめうどん 400円
- おにぎり(2個) 200円
- おにぎり(1個) 120円

### ● ポポロギャラリー

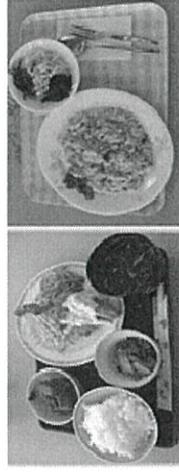
店内を拝見してみてください。想いのこもった素敵なお品があるはず。あなにも、写真や絵画、ハッチワーク、人形など手づくりの作品を飾りませんか？

- ・ 展示期間は原則2週間です(無料)。
- ・ 写真・絵画目的ではご利用いただけません。
- ・ 展示品の破壊・損失等については責任を負いかねます。

お問合せ先  
 079-559-5907  
 (内線1148)  
 営業時間  
 月～金 10～16時



健康素材。日替わりランチ  
 軽食メニューを  
 ぜひご賞味ください！



日替わりメニューは  
 福祉センター内や福祉ホーム、ページで  
 ご覧いただけます。  
 スイーツは100円～あります。  
 菓子をどうぞください。

## 15. 職員プロジェクト・チームによる取り組み

組織課題解決に向けた、横断的なプロジェクト及びチーム(社協だより編集委員会・災害支援)を管理・監督職で構成し検討を行いました。

### ◆地域福祉推進計画進捗管理プロジェクト

- 【ねらい】
- ・第3次地域福祉推進計画策定に向けた準備(策定委員選出・ヒアリング検討・研修など)
  - ・地域共生社会づくりに向けた包括的支援体制の構築と中間支援組織としての役割の検討
- 【取組内容】
- ・地域福祉推進計画策定に係る役員研修の開催(2回)
  - ・日常業務で困難を感じる典型的なケース分析による地域の中に潜在するニーズの共有と必要な仕組みの検討
  - ・第3次地域福祉推進計画策定に向けた意識共有と組織一体での取り組み促進 会議回数 42回

### ◆財政計画進捗管理プロジェクト

社協の財政状況の厳しさ、福祉人材の不足といった避けることのできない大きな課題に対して、具体的な組織経営の改善を進めていくために、3つの部会を設け、検討を行いました。財政計画の策定については、地域福祉推進計画の策定と連動し、引き続きプロジェクトにおいて取り組みます。

#### ① 自主財源確保・創出部会

##### 【課題】

- ・介護サービス経営計画の確実な推進
- ・計画記載法人繰入予定額を下限とした進捗管理体制(法人内情報共有体制・PRツール開発・実施)

##### 【取組内容】

- ・介護保険・障害福祉サービス事業の目標達成に向けた収支管理
- ・社協の介護保険・障害福祉サービス魅力発信(社協だより2月号特集記事の掲載)

会議回数 4回

(介護サービスの収支管理は毎月実施)

#### ② 社協ブランド構築部会

##### 【課題】

- ・広報のあり方(何を伝えるべきか?社協だよりとHP・SNSのバランス等)
- ・地域福祉財源“会費・共募・善銀”のあり方(それぞれの特徴の明確化、推進方策)

##### 【取組内容】

- ・広報のあり方見直しを理事会へ提案。令和4年度より、①ホームページ見直し、②紙媒体の発行回数変更、③SNSの充実について、取り組みスタート。

会議回数 7回

#### ③ 人材のあり方部会

##### 【課題】

- ・人材のあり方や年齢構成について
- ・職員定着のための方策(キャリア構築・ワークライフバランス確保、研修・仕組み・手当等)
- ・職員評価のあり方(人事考課等)
- ・市との委託・補助のあり方 など

##### 【取組内容】

- ・視察(宝塚市社協・伊丹市社協)
- ・収支均衡達成のための目標額の明確化

会議回数 4回(他、マネジメント会議3回検討)

# 地域福祉課 人と人のつながりを大切にしました様々な協力による地域づくり

## 地域福祉活動支援事業

### 地域福祉の啓発・支援

新型コロナウイルス感染症予防のように地域福祉活動に制限がかかるような状況下でもつながりが保つことができる取り組みとして、オンラインツールの活用を促進します。

- ・オンライン会議実践講座
- ・地域福祉活動者関連研修

### 重点項目1

## 運営費用

	予算	執行状況
事業費	58,168,000円	49,330,705円
財源		
補助金	12,000,000円	11,893,757円
受託金	32,000,000円	32,000,000円
財政安定化積立金	14,168,000円	5,436,948円

## 成果指標

オンライン会議の普及に向けた実践講座を各圏域で開催し、団体・グループ等でオンラインの情報交換等が行われるようになります。(新しいつながり方のツールのひとつとなる)

## (1) 成果

昨年度と同様に地域活動が停滞しやすい状況が続きましたが、生活支援コーディネーター兼地域福祉支援員の働きかけや様々な事業を通して、地域でのつながりを維持する(社会的孤立を予防する)活動の促進を図りました。とりわけ、孤立を防ぐ見守り・つながり推進事業(助成金事業)では、地域のつどい場を完全に休止するのではなく、見守り訪問等に切り替えた活動を促したことで、少なくとも90団体が活動を休止せず、それぞれに工夫した地域活動を続けることができました。

(コロナ禍以前の助成金事業申請数は92団体。)

また、各地域では、子ども食堂やマンションでのサロンの立ち上げ支援、民生委員・児童委員に対する見守りネットワーク研修会等を実施し、新たな担い手の養成や地域の福祉力の向上に結び付けました。

## (2) 課題と次年度に向けて

コロナ禍に伴い、社会的孤立に陥りやすい状況は依然として続いているため、次年度も地域でのつながりを維持する(社会的孤立を予防する)活動を促進するとともに、地域の福祉力の向上(住民主体の協議の場や地域活動の創出、新たな担い手の発掘等)を図ります。

なお、専門性と職責を伴った職員の配置に必要な人件費については、市からの委託金・補助金が不足しており、その補填が社協の財政状況に影響を与えています。今後同様の状況であれば地域支援にかかる人員配置の維持は難しい状況です。状況改善に向け、次年度も引き続き『地域での孤立対策』を支援する体制の充実を三田市に働きかけます。

## 善意銀行事業

### さっちゃんのみどころお福分けネットワーク

あらゆる人が制度、支援の狭間に陥り見落とされること（社会的孤立）を防ぐため、企業の社会貢献活動と個別ニーズをつなぎ合わせることとして食品提供を通じたつながりづくりを実施します。

夏休み前やクリスマスを含んだ年3回程度（状況に応じて臨機応変に対応）、民生委員・児童委員やボランティア、行政等との協力をいただきながら進めます。

### 子どもの孤立を防ぐネットワーク

子どもやその親などの孤立を防ぐための情報共有や連携をすすめ、拠点（地域・子ども食堂、シニア・ユースひろば等）やサービス（ファミリーサポート等）、教育・福祉関係機関による情報交換会などのネットワークを形成します。

## 重点項目2

## 重点項目3

## 事業費用

	予算	執行状況
事業費	267,000円	476,359円
財源	寄付金	724,358円

## 成果指標

子ども食堂や学習支援、行政などの子ども支援する関係機関による連絡会を開催し、子ども、その親の孤立を防ぐ予防する取り組みを進めます。

## (1) 成果

さっちゃんのみどころお福分けネットワークでは、夏休み、クリスマス、進級・進学時期に、ひとり親世帯・就学援助世帯等に対して、白米等を提供するとともに社会的に孤立させないネットワークづくりに取り組みました。

<提供実績>

8月…228世帯（子ども415名） 12月…280世帯（子ども490名）  
3月…247世帯（子ども448名）

登録者が680名（前年比+191）となったさっちゃんのみどころお福分けネットワーク専用の公式LINEアカウントでは、緊急小口資金や教育支援資金等の情報を定期的に発信した結果、この事業を入口として新たな制度利用や相談につながり生活改善に向けて動き出した例もあり、単なる食品提供に留まらないネットワーク機能を発揮しました。

加えて、寄付・協力のネットワークも広がっており、市内外の様々な企業・団体、個人の皆様からたくさんの協力を得ることができました。

※寄付金…724,358円（前年比+331,585円）

物品等協力（玄米、食品等）…8事業所、延べ93名

子どもの孤立を防ぐネットワークでは、市内の子ども食堂をはじめとする活動団体間のネットワークづくりに向けた連絡会の立ち上げを支援し、さんだ子どもまんなかネットワークが設立されました。

※さんだ子どもまんなかネットワークとは地域子ども食堂（市内7カ所）の連絡会

## (2) 課題と次年度に向けて

食品を受け取りに來られた方々へのアンケートを通して、厳しい経済状況や子どもの預け先、保護者同士のつながりに関する課題が浮上しました。

※アンケート『普段の生活で気になること・困りごと』(回答数280)

生活費・養育費の不安…137 成長・発育・学力の不安…76

子育てで仕事に限定される…67 預け先に困る…51 など(重複あり)

次年度も引き続き食品提供を通じた社会的に孤立させないネットワークづくりに取り組みとともに、把握した課題に対する新たな事業を展開します。

## 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う新たな取り組み

新型コロナウイルス感染症は、あらゆる社会活動を制限し、人と人とのつながりを希薄化させるまでに至りました。「このような時だからこそ、人と人とのつながりを継続・実感できるように」、「新たなつながり方」を模索し、行政や企業・事業所、また市民の皆さまの協力を得ながら迅速かつ柔軟な取り組みを展開しました。

### 1 障害者週間イベント×こらぼーと EXPO【ともいき三田】

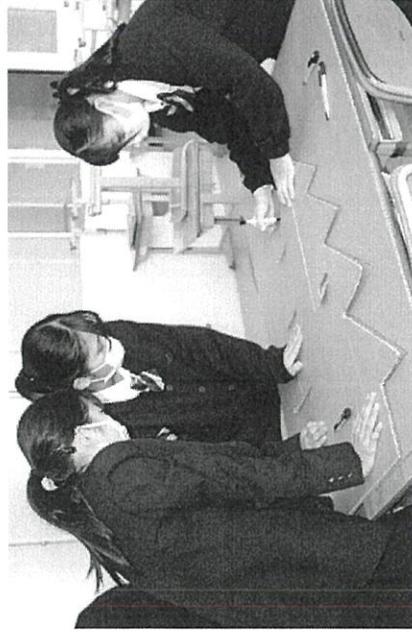
新型コロナウイルス感染症の影響により対面交流が制限される中、共通テーマをもちながら各自が役割分担の元で制作活動をする。それらが集約されて一つの作品となっていく過程を通じ、参加者が共に社会を作り出す「共生社会」の担い手であることを体感する機会を設けました。

内 容 クリスマスツリーの土台となる部分を学生やボランティア活動者が作成し、オーナメントづくり、飾りつけを各施設などで行うとともに、各施設のツリー以外にも市民が自由に作品製作に参加できるツリーの土台を総合福祉保健センターに用意し、あらゆる人の参加によって作り上げる作品展示を行いました。

開催日 令和3年11月29日(月)～12月10日(金)

開催場所 三田市総合福祉保健センター ギャラリー

参加者 510名(障害施設団体 17団体・ボランティア団体5団体・学校3校・他来館者)



▲学生がクリスマスツリー、各障害施設団体のみなさんがオーナメントを製作し、一つの作品に仕上げました。来館者の好評を受け、参加した方からは、次に向けて創作意欲がわいているとの声をいただいています。

## 地域福祉係 地域福祉支援室

地域でのつながり・見守り・支え合いを推進するため、生活支援コーディネーター兼地域福祉支援員(7名)を市内6か所の地域福祉支援室に配置し、地域でのつながりを維持する(社会的孤立を予防する)活動を推進しました。また、子ども食堂やマニションでのサロンの立ち上げや、民生委員・児童委員に対する見守りネットワーク研修等の支援を通して、新たな担い手の養成や地域の福祉力の向上に努めました。

### 1 地域福祉活動の推進・支援

孤立しやすい状況になっているからこそ、つながりを維持する(社会的孤立を予防する)活動を推進するため、新しいつながり方に関する情報紙の発行や従来の助成金事業の変更を通して積極的な見守り活動を促進しました。

◆孤立を防ぐ見守り・つながり推進事業(助成金事業)[共同募金配分金事業]

※助成実績:90団体 3,816,217円(コロナ禍以前は92団体。)

◆さんだ地域のつどい場マップ2021の発行(2,500部)

◆地域活動者研修会の開催

◆地域活動情報紙の発行(年2回) など



#### (地域活動者の声)

- ・多くの方が訪問を楽しみに待っておられた。
- ・みんなが集える場所は改めて必要と感じた。
- ・普段、サロンに参加しない人への訪問活動も重要と気づいた。



▲各地域で訪問活動が活発化しました

### 事例①新たな担い手を発掘～子ども食堂立ち上げ支援～

まちづくり協議会が主催する子ども食堂の立ち上げに向けたボランティア養成講座の開催を支援しました。講座には、40名以上が参加し、中には80代の高齢者や大学生、これまで地域活動に参加していなかった方もおり、担い手不足を課題とする中で新たな担い手が発掘されました。



▲子ども食堂スタートアップ講座

### 事例②民生委員×近所の人×専門機関～みんなで見守るネットワークづくり～

民生委員児童委員協議会で見守りをテーマにした学習会を地域包括支援センターと共催しました。民生委員・児童委員だけではなく、地域全体で見守る視点を持ち、ネットワークを広げることを共有しました。その結果、民生委員・児童委員の気づきから障害者の個別ケア会議が開催されるまでに至りました。

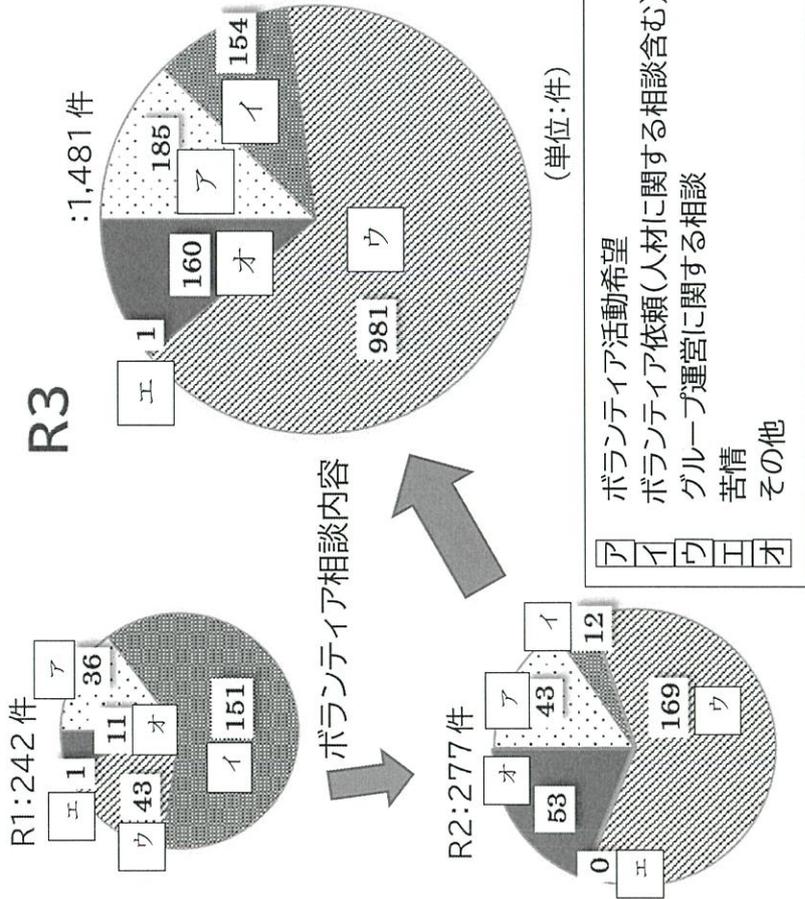


▲見守りをテーマにした学習会

## 地域福祉係 ボランティア活動センター

新型コロナウイルスによる社会状況の変化は、ボランティア活動に大きな影響を与え、昨年度は地域イベントや福祉施設の外部交流の中止などにより、ボランティア活動団体の活動も休止せざるを得ない状態となりました。しかし、コロナ禍も丸2年となり「本当は、来てほしい」「交流したい」の声を受けて、「このままではいられない」「待ってくれている方の想いに応えたい」と活動方法を模索し、少人数対応での活動やオンラインを活用した活動など、コロナ禍でもできる方法で活動する団体が増え、特にオンライン活用など新たな取り組みについての相談が大きく増加しました。また、学校でもオンライン環境の整備が進んだこともあり、オンラインで当事者との交流を図るなど、ボランティア活動の原則の一つである「創造性・開拓性・先駆性」をさらに発揮できるよう努めます。

### 1 ボランティア活動センターの運営



### 2 福祉学習の推進

昨年度はコロナ禍での感染対策による影響と学校が休校したことで、授業カリキュラムが見直され、取り組みを見合わせる学校や、度重なる緊急事態宣言により中止となった学校も多くありました。

しかし、今年度は感染対策を講じたオンラインプログラムの提案や、貸出備品の殺菌庫の導入により安全な貸出備品を活用できることから、新型コロナウイルス禍以前の状況にまで取り組みが実施されるようになりました。

◆福祉学習サポート事業実施校

小学校:12校 高校:2校 / プログラム 20件 ※前年度 10校 / 20件

◆福祉学習サポート事業外実施校

小学校:5校 / プログラム13件 ※前年度 2校 / 2件



知的障害疑似体験

### ※ライブオンライン学習



視覚障害者交流

## 地域福祉係 障害者生活支援センター

令和元年度に事業公募が実施され、令和2年度から令和4年度の3か年事業を受託することとなりました。2年目である令和3年度は、コロナ禍で、緊急事態宣言も発令される中、障害者総合相談窓口『きいてネット』として相談状況の共有や支援方法の検討など定例の場を設け、支援機関の連携を保ちつつ、確実な対応と支援の質の担保を図りました。一方、『きいてネット』の構成法人間の、更なる連携を深めるため、地域福祉の考え方などについてより一層の認識の共有を図っていくことが必要です。社会全体の自粛継続等により相談件数はコロナ禍の前と比較すると微減していますが、相談の内容は従来の社会参加や余暇活動、漠然とした日々の不安などではなく、障害や病状の理解に関する相談、健康・医療に関する相談が増加しており、新型コロナウイルスの影響を受け心身が窮したものと考えられます。コロナ禍による社会環境の変化がもたらした当事者の生活課題の解決に向け、多様な支援を展開するために、新たな支援ツールを開拓・開発することが相談員に求められています。より一層、当会のもつ多様なネットワークと多様なスキルを活かし、当事者の安心な暮らしの実現に向けた支援を展開します。

### 支援内容（重複あり）

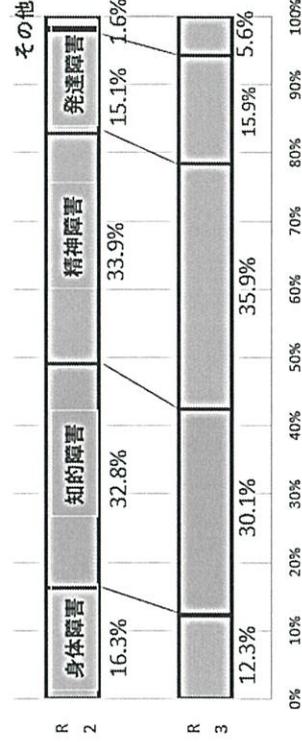
支援内容	R3年度	R2年度
福祉サービスの利用等に関する支援	240	227
障害や病状の理解に関する支援	120	73
健康・医療に関する支援	170	104
不安の解消・情緒安定に関する支援	325	398
保育・教育に関する支援	21	18
家族関係・人間関係に関する支援	275	374
家計・経済に関する支援	231	212
生活技術に関する支援	121	85
就労に関する支援	108	101
社会参加・余暇活動に関する支援	47	75
権利擁護に関する支援	33	152
その他【当事者支援に関すること(虐待含む)、障害に関する情報提供等】	172	183
合計	1,863	2,002

- ▲ 障害や病状に関する相談が 3.6%から 6.4%  
健康・医療に関する相談が 5.2%から 9.1%  
心身に関する相談の割合が増えています。

### 障害別相談件数（延べ件数）

障害種別	R3年度	R2年度
身体障害	141	210
重症心身障害	2	0
知的障害	346	422
精神障害	413	436
発達障害	183	195
高次脳機能障害	1	5
その他	65	20
合計	1,151	1,288

※その他：関係機関による障害全般の相談等



## 多世代交流係

社協が行う子育て支援事業(ファミリーサポートセンター事業、養育支援訪問事業、こんには赤ちゃん事業、母子・父子福祉活動事業、児童・青少年福祉活動事業)を一元化し、情報の共有を行い、利用者が必要とする支援を適切に提供することなく提供することに努めました。

### 1 さんだファミリーサポートセンター事業

今年度下期は新型コロナウイルス感染者数の減少により一時期活動件数は増えてきましたが、その後子どもを中心に感染が広がり、多くの市内保育施設や小学校がクラス閉鎖、休校措置となったことで、援助活動は減少しました。講習会、交流会は感染予防対策をとって開催し、スキルアップと会員同士の交流を行いました。

◆会員数: 依頼 766 名、協力 337 名、両方 107 名 計 1,210 名

※前年度同時期: 1,213 名

### 2 養育支援訪問事業

周産期や母親の傷病などにより、身体的・精神的に育児や家事が困難となっている家庭に対し、「夢サポーター」が訪問して料理・掃除・洗濯などの家事や沐浴等育児の支援を行いました。また、市関係機関からの紹介、ファミリーサポートセンターとの連携を行いました。新規夢サポーター養成のため、子育て支援講座を実施しました。

◆登録夢サポーター: 29 名

◆利用件数: 77 件(実利用者 25 名) ※前年度: 42 件(実利用者 15 名)

### 3 こんには赤ちゃん事業

新型コロナウイルスの影響が長期化していますが、感染症対策を行い訪問しました。また、市関係機関、保健師との連携を行いました。

訪問対象: 転入者を含む1歳未満児(おおむね 4 か月まで)

◆令和3年度3月末訪問件数: 106 件 ※前年度同時期: 109 件

### 4 シニア・ユースひろば

シニア・ユースひろばではコロナ感染拡大防止に努めつつ、小学生対象の学習・体験事業「ふらっとチャレンジ」の期間・人数を縮小し開催。ボランティア企画「微笑みひろば」が中止となった場合にはレシピ公開(チラシ・Facebook)や材料配布を行うなどできる限りの開催に努めました。また、引き続き短時間でできる工作を毎月提供し、親子連れや子どもたちがゲームで遊ぶのとは違う過ごし方をしています。

感染予防対策でリースペース等の利用が半分に制限された状態が続き、利用者数も減少した状態です。

◆利用者数: 21,158 名 ※前年度: 23,207 名



▲「ふらっとチャレンジ」しめ縄作りの様子

# 総合相談支援センター

## 「自分らしい暮らしの実現」に向けた支援を地域ぐるみで推進します

### 権利擁護・成年後見支援センター運営事業

#### 権利擁護支援体制の構築（強化）

#### 重点項目1

障害や認知症などにより判断能力に不安のある方に向けた、日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用支援、また消費者被害などの権利侵害に対して、センターの果たすべき機能・役割を行政とともに改めて検証し、今後を見据えた支援体制の強化について検討を進めます。

#### (1) 成果

昨年度に引き続き、コロナ禍により困窮した世帯に対して、コロナ特例貸付事業、住居確保給付金事業の相談窓口を担当し、申請受付・相談対応を行いました。また、次年度の中核機関設置・権利擁護支援体制構築の充実に向け、市担当課とともに先進地視察（伊丹市）を行い協議を重ねました。「地域連携ネットワーク」の構築（明文化）には至りませんが、ネットワークの場のひとつである「権利擁護実務者会議」における処遇困難ケースの解決に向けた検討を通じ、当事者の権利擁護の視点に立った問題解決を提起しながら、支援者や地域の権利擁護意識の醸成に向けて取り組みました。

#### (2) 課題と次年度に向けて

コロナ禍により困窮状態のまま、関連支援制度が終了していく中、状況の改善を図ることができない世帯に対し、就労支援、生活保護の受給などの支援体制づくりが必要です。

#### 成果指標

行政と関係機関間で支援体制にかかる協議の場を持ち、令和4年度以降、成年後見制度利用促進法における「地域連携ネットワーク」の構築を見据えた支援体制が確立される。

#### 総合相談支援センター共通

急激な高齢化、8050（9060）問題、老々介護、ひきこもり、家族間の関係性悪化、疾病、障害受容の困難さなど1つの世帯に課題が集約する「複合多問題ケース」が増加する一方で、具体的な解決につながるプログラムは限られています。法人内外の専門機関・行政と協力を促し、根本的・継続的な課題解決につながる資源開発を、第3次地域福祉推進計画における市域での相談支援体制構築検討と合わせて行っていきます。

#### 運営費用

	予算	執行状況
事業費	3,028,000円	2,764,566円
財源	受託金	2,764,566円

## 新型コロナウイルス特例貸付

期間：令和2年3月25日開始～令和4年8月末(予定)

コロナ禍の影響を受けた収入減少世帯への、新型コロナウイルス特例貸付(緊急小口資金・総合支援資金)の受付終了時期は、当初の令和2年7月末から、9度の延長を経て令和4年8月末となり、特設スペースを確保し、受付業務を行いました。

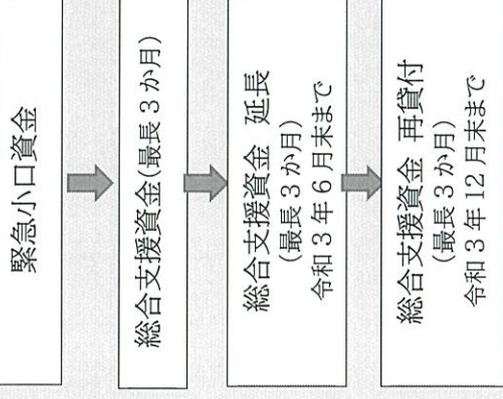
「保育所に預けられず仕事に行けない」「シフトが減った」「仕事の依頼が減った」「離職した」など、新型コロナウイルスの影響により困難な状況にある世帯からの相談が多く寄せられました。

月次	緊急小口資金		総合支援資金					
	相談	申請	決定	相談	申請	決定	延長	再貸付
R3.3月 未累計	587	431	431	318	300	248	155	102
R4.3月 未累計	793	601	604	486	458	434	206	277

兵庫県社会福祉協議会 決定状況 (令和4年3月31日現在)

資金種別	決定件数		決定金額	
	決定件数	決定金額	決定件数	決定金額
緊急小口資金 ※労働金庫、日本郵便業務委託受付件数含む	621件	120,020,000円		
総合支援資金 ※延長・再貸付件数含む	721件	519,450,000円		
合計	1,342件	639,470,000円		

新型コロナウイルス特例  
貸付のなかで



## 住居確保給付金

離職、廃業又はやむを得ない休業等により経済的に困窮し、住宅を喪失又は喪失するおそれのある方で、就労能力及び就労意欲のある方を対象として、住居確保給付金を支給し、就労機会の確保等に向けた支援を行いました

- 新規申請：12件
- 再支給申請：11件

## 自立相談支援事業 自立支援計画(プラン)の策定

住居確保給付金の活用に伴う求職活動の支援をはじめ、目標達成に向けたプランを一緒に作成し、支援調整会議でプランを決定し進捗を共有しました。

支援調整会議開催日 毎月1回定例開催

- プラン作成件数 75件(前年度54件)  
…うち初回プラン 25件(前年度18件)
- 評価実施件数 81件(前年度44件)  
…うち終結 33件(前年度8件)

自立相談支援機関として、住居確保給付金の対象者が拡大、延長と再支給が可能となり、長期にわたる相談支援が求められました。

また、当初1回(最大3ヶ月)であった総合支援資金貸付が延長申請(令和3年6月末まで)、加えて、再貸付(令和3年12月末まで)が可能となり、その申請に伴い、自立相談支援事業への相談が必要となりました。

特例貸付事業終了後の生活再建を見据え、自立相談支援の役割を意識しながら、幅広く権利擁護を担う機関として、各機関との連携や専門職とのつながりのなかで支援を行いました。

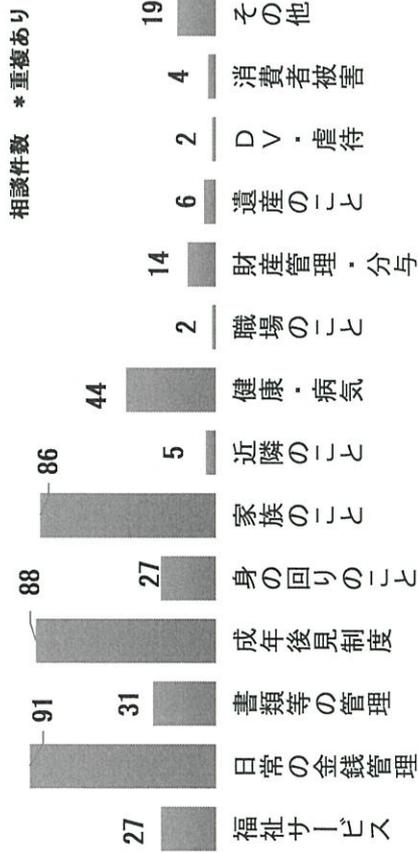
## 権利擁護・成年後見支援センター

判断能力の低下や、人・地域との関わりが難しいなど、生きづらさを抱える人や離職や減収に伴い、生計維持が難しい人などが、「自分らしく安心して生活ができる権利」を護ることができるよう、関係機関と連携し相談対応を行いました。

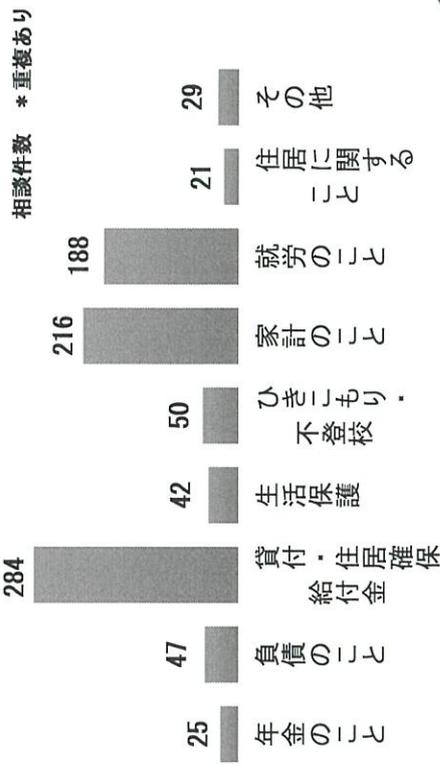
【相談件数】※福祉サービス利用援助事業契約者を除く \* ( ) は前年度実績

	高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
相談・支援実人数	180(160)	8(12)	30(46)	415(320)	633(538)
新規相談実人数	76(71)	4(5)	11(15)	122(124)	213(215)
延相談・支援人数	303(236)	9(13)	53(75)	638(501)	1,003(825)

権利擁護支援事業 延相談・支援人数 238 件



自立相談支援事業 延相談・支援人数 765 件



### 1. 日常生活自立支援事業

判断能力が不十分な人々の自己決定を支援し自立した地域生活を送れるよう支援を行いました。

利用者 令和4年3月末現在

- 認知症高齢者 8名
- 知的障害者 3名
- 精神障害者 4名 ▶ 新規6名 解約7名

### 2. 権利擁護専門相談

将来に向けた成年後見制度利用の検討や債務整理など法的な権利擁護に対する助言を求めるものが多く、支援者である専門職からの相談にも応じました。

開催日数:15日 ※第1木曜日:弁護士、社会福祉士等/第3木曜日:司法書士、社会福祉士等  
相談者数:23名(前年度20名)

相談者数	高年齢者	障害者	その他	合計
13名	7名	3名	23名	

### 3. 権利擁護実務者会議

相談のプラットフォームとして、現に抱える支援困難ケースについて、多様な支援機関(医療、司法、保健、福祉、行政、その他あらゆる分野)が解決のための相談・協議を行い、権利擁護支援に向けた協働・実践へと繋げる場として開催しました。

開催日時: 第4木曜日 14時～16時 \* 6月(18時～20時)は、コロナ禍による貸館時間短縮のため中止。

参加機関: 公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート兵庫支部、NPO法人あすなろ、特定非営利活動法人 WELnet さんだ

相談支援事業所「ねくすと」、障害者基幹相談支援センター、障害者生活支援センター、JAオアシス三田居宅介護支援事業所

高齢居宅介護支援事業所、中央居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所まなかいプラン、サンウエスト老人介護支援センター

りかおん居宅介護支援センター、社会福祉協議会訪問看護ステーション、中央ホームヘルプステーション、三田市地域包括支援センター

藍地域包括支援センター、ウツデイ地域包括支援センター、広野・本庄高齢者支援センター、三輪北・小野・高平高齢者支援センター

市子ども家庭課、市生活支援課、市いきいき高齢者支援課、市障害福祉課、さんだりハビリテーション病院、三田市民病院、地域福祉支援室

権利擁護・成年後見支援センター(延べ132名)

### 4. 権利擁護支援体制の充実に向けて

#### ◇先進地視察

中核機関の次年度設置に向け、市生活支援課とともに先進地への視察を行い、協議しました。

○視察先 伊丹市福祉権利擁護センター

○内容 センター業務内容及び体制、中核機関設置の機能、設置後の評価など

地域連携ネットワークの構築も視野

に、いれ、「権利擁護実務者会議」を定期的に開催し、それぞれの専門性を活かしつつ解決に向けた検討を実施しました。令和4年度からの中核機関設置を機に、より充実した権利擁護体制の充実に、実が図られるよう検討を進めます。

### 6. 低所得者支援事業(善意銀行・共同募金配分金)

#### ◇就学援助家庭への修学旅行助成事業

各小中学校へ案内し、低所得世帯等家庭の児童・生徒に対し修学旅行経費の一部助成とともに、生活支援のきっかけづくりを行いました。

○助成内容: 小学生 3,000円 / 中学生 5,000円

○申請者: 小学生 50名(前年度65名)

中学生 65名(前年度81名)

#### ◇生活保護世帯つなぎ資金貸付事業

生活保護申請中の生活費として、福祉事務所長の意見書により、申込者に貸付を行いました。

○利用件数: 17件(前年度20件)

○貸付金額: 656,081円

(前年度1,133,272円)

### 5. 広報・啓発

#### ◇ひきこもり講演会(当事者家族向け)

○ひきこもりのせいかいへ生きづらさにより添うには～  
講師 特定非営利活動法人 神戸オレンジの会

理事長 藤本 圭光氏

参加者 25名

○知る みまもる つながる

～家族のコミュニケーション～

講師 特定非営利活動法人 青少年自立支援施設

淡路プラッツ 藤村 泰王氏

参加者 19名

#### ◇権利擁護啓発研修会

○「成年後見制度のキホン」

講師

(公社)成年後見センター・リーガルサポート兵庫支部  
安田司法書士事務所 安田 理香氏

参加者 23名

## 介護予防普及啓発事業

### 予防効果にこだわる身近な地域の通いの場での「フレイル予防講座」の展開

#### 重点項目2

フレイル予防として口腔・栄養・運動などの講座メニューを地域の通いの場に提供し、それぞれの暮らし向きに応じたプログラムの提案により、フレイル予防の日常化を図り個人の健康寿命が保たれることをめざします。

#### 運営費用

	予算	執行状況
事業費	7,864,000 円	3,462,998 円
財源	受託金	3,462,998 円

#### 成果指標

参加者がフレイルチェック（個別アンケート）を行い数値面での維持・向上が確認できる。

### 地域介護予防活動支援事業（認知症啓発関連事業）

#### 住民目線で認知症への理解促進！キャラバンメンメイト養成講座の開催

#### 重点項目3

認知症サポーター養成講座の講師等を担うキャラバンメンメイトの養成（事業費27千円）を、伊丹市・宝塚市・猪名川町・三田市の共同で開催します。住民の立場で認知症にかかる啓発や見守り活動を行うサポーターの養成によって、地域の中に個々の状況に応じた具体的なつながりや居場所づくりの展開をめざします。

#### 運営費用

	予算	執行状況
事業費	2,287,000 円	2,031,922 円
財源	受託金	2,031,922 円

#### 成果指標

キャラバンメンメイトの増員が図られる。目標10名

#### (1) 成果

【介護予防普及啓発】フレイル講座メニューは、口腔・栄養・運動ですが、「社会参加」も予防における3要素の1つであり、地域の通いの場の世話役の方々への呼びかけを積極的に行いました。コロナ禍の中ででしたが感染対策を主催者とともにを行い、82講座（計画318講座）を開催しました。

【認知症啓発関連】認知症の方を支える専門職の取り組み（ものわすれ相談・初期集中支援事業等）はコロナ禍でも予定どおり実施しましたが、市民向け事業（認知症サポーター養成講座）は感染予防への配慮により昨年度（28団体455名）を下回る22団体382名の参加にとどまりました。

一方で講師役となるキャラバンメンメイトは、3市1町（伊丹・宝塚・猪名川・三田）協働で開催・養成を行い、16名が増員でき今後の認知症に関する啓発が進むことを期待されることです。また、市広報と連動した啓発アプローチも行いました。

#### (2) 課題と次年度に向けて

【介護予防普及啓発】「コロナフレイル」という言葉にあるように、外出・社会参加の自粛傾向は社会的な課題です。継続してフレイル予防の重要性、日々の取り組みによる効果などを既存のフレイル予防教室や地域の通いの場への啓発を強化します。

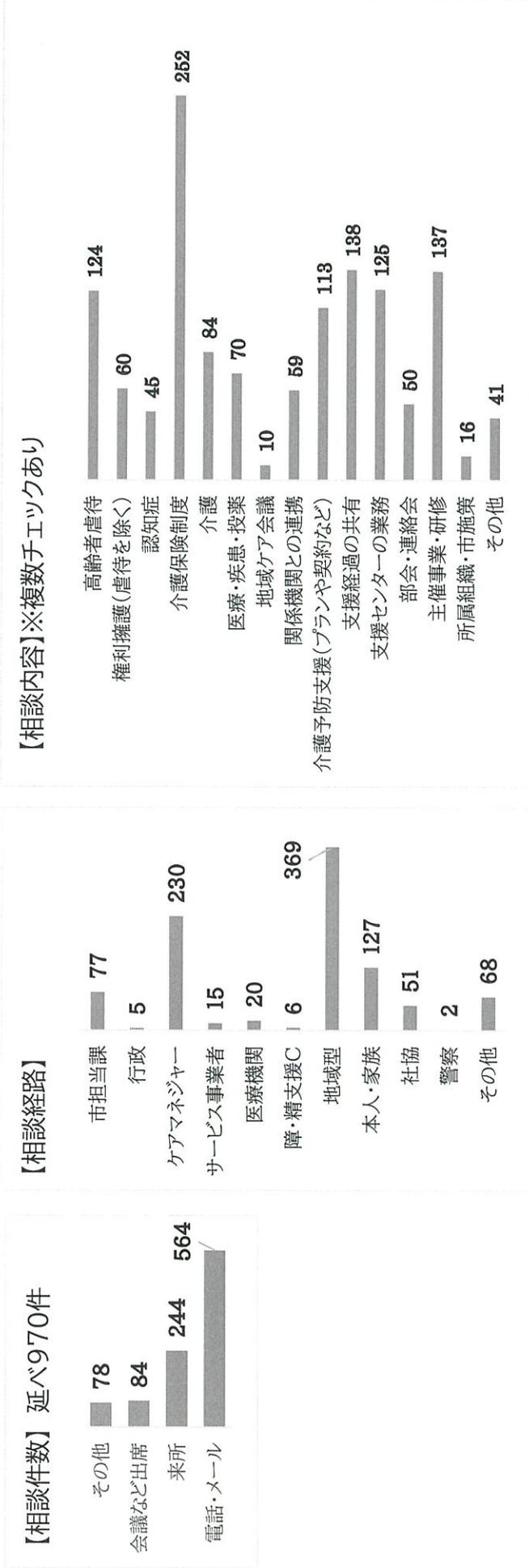
【認知症啓発関連】様々な取り組みを重層的に実施する調整機能が求められます。

また、法人が持つ広報媒体やネットワークを活用しながら「相談窓口が伝わり、活用される」方策を検討します。



# 1. 三田市地域包括支援センター基幹型相談件数

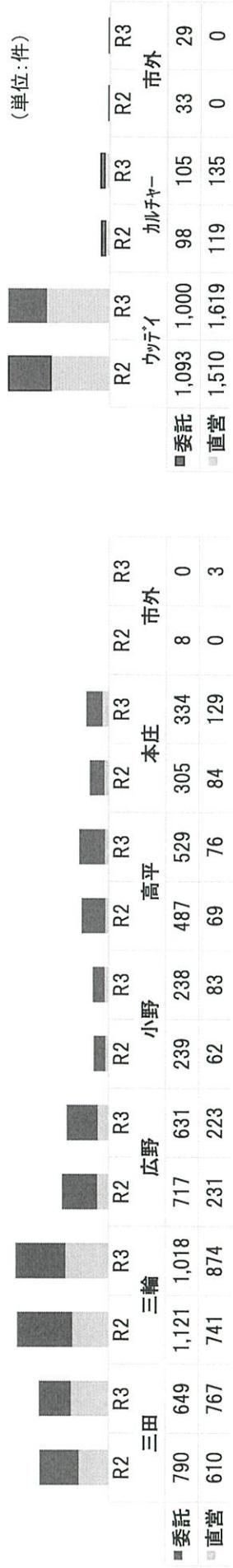
高齢者が住みなれた地域で暮らし続けることができるよう、住民だけでなく、各関係機関、事業所等に対する相談業務を行いました。



# 2. 介護予防ケアマネジメント業務(三田市地域包括支援センター・ウツデイ地域包括支援センター)

介護保険における要支援1・2と認定された方へ、本人や家族の意向および生活環境などを踏まえ、介護予防サービスの種類・内容などを記した介護予防サービス計画(ケアプラン)を作成し、計画に基づいたサービス提供が届けられるよう関係機関との調整を図りました。

**【給付管理件数】** 委託事業所：三田市地域包括支援センター36 事業所 / ウツデイ地域包括支援センター35 事業所 ※市外：住所地特例利用者



### 3. 地域包括・高齢者支援センター(地域型)相談件数

※社協受託:三田・三輪南地域/ウッディ・カルチャー地域

高齢者やご家族の相談を受け止め、訪問活動等による実態把握を行い、必要なサービスへとつながないでいくことや、地域とのつながりがづくり支援を行うとともに、得られた地域課題を各種ネットワークへ積極的に還元しました。

	三田・三輪南	フラワー	ウッディ・カルチャー	藍	三輪北・小野・高平	広野・本庄
相談実件数	1,049	1,142	1,206	257	151	346
相談延べ件数	1,962	1,413	1,976	416	245	482
訪問件数	595	428	591	355	213	181
(相談対象者の状況)						
一般高齢者	448	75	479	18	5	4
虚弱	331	481	382	179	104	203
要支援	583	496	611	145	65	126
要介護	600	361	504	74	71	149
合計	<b>1,962</b>	<b>1,413</b>	<b>1,976</b>	<b>416</b>	<b>245</b>	<b>482</b>
(相談内容)						
介護保険制度	1,143	914	1,428	220	177	352
保健福祉サービス	506	69	98	10	13	70
医療・疾患・投薬	407	253	177	37	75	171
生活全般	1,086	311	402	86	49	288
介護	360	85	98	19	19	133
認知症	454	191	219	18	31	101
安否確認	124	12	19	3	5	60
インフォーマルサービス	76	63	49	28	6	78
その他	158	56	180	30	10	50
虐待	32	5	3	1	1	12
成年後見	55	7	5	1	1	5
消費者被害	15	0	8	1	1	0
その他権利擁護	61	15	19	9	0	8
合計	<b>4,477</b>	<b>1,981</b>	<b>2,705</b>	<b>463</b>	<b>388</b>	<b>1,328</b>

相談形態		
形態	三田・三輪南	ウッディ・カルチャー
電話	939	1,029
来訪	383	764
訪問	541	149
その他	99	34
合計	<b>1,962</b>	<b>1,976</b>

世帯状況		
状況	三田・三輪南	ウッディ・カルチャー
ひとり暮らし	783	502
高齢者世帯	598	643
同居家族あり	497	745
その他	84	86
合計	<b>1,962</b>	<b>1,976</b>

#### 4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

高齢者やご家族の暮らしに地域の多様な社会資源を活用した支援が確実に届き、「自分らしく安心した生活」につながる関係者向けプログラムを実施しました。

##### ◇総合相談・精神保健研修 (対面・オンライン)

内容	講師	参加者
うつについて学ぶ～コロナ禍における外出自粛によって顕在化が予測される疾患を学ぶ～	さくところのクリニック 副院長 吉川 敦氏	40名
精神科訪問看護～精神障害者を在宅で支える～	訪問看護ステーション サンサリテ三田 森木 俊博氏 おかもと訪問看護ステーション垂水 信川 千賀子氏	37名

##### ◇地域包括ケア研修

内容	講師	参加者
高齢ドライバーの現状の理解を深める研修会	三田警察署交通課交通総務係 兵庫県警部補 末澤 直史氏	10名
◇権利擁護研修		
内容	講師	参加者
意思決定支援のあり方について考える	認定社会福祉士 田島 啓子氏	16名

#### 5. 自立支援型地域ケア会議の推進

ケアマネジャーが作成するケアプランを対象に、多角的な専門分野からの助言を得ながら、より必要なサービスの導入や支援方法を検討する場を通して、高齢者の自立支援につながるケアマネジメントを支援しました。



自立支援型地域ケア会議

メンバー：  
ケアマネジャー 齒科衛生士  
薬剤師 栄養士 理学療法士  
地域包括・高齢者支援センター

会議では専門職の助言やケアマネジャー自身の振り返りを通してアセスメントの方向性を探り、介護予防プランの見直しを図っています。

講師(スーパーバイザー)  
特別養護老人ホームさんすい園 施設長 前川 嘉彦氏  
主任介護支援専門員 坂本 和子氏

#### 地域ケア会議の開催

6回開催 12事例を実施 参加者:延べ94名

#### 6. 高齢者虐待対応

【三田市高齢者虐待防止マニュアルによる虐待認定件数】※( )は前年度実績

虐待対応件数(実人数)	前年度末	新規認定	終結	認定継続
	1	0(3)	0	1

○権利侵害に関する会議等:2件 ○他困難ケース等カンファレンス:20件  
○高齢者権利擁護法律相談:6件(電話5件/面接1件)  
※公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート兵庫支部対応

#### 7. 認知症地域支援・ケア向上推進事業

認知症の人への効果的な支援を行うために、医療と介護の連携強化や地域における支援体制の構築を図るための取り組みとして、認知症疾患医療センター兵庫中央病院と連携して、若年性認知症多職種連携会を開催しました。今後も定期開催し、若年性認知症への支援体制づくりを目指します。

○若年性認知症多職種連携会:3回開催  
○参加者:兵庫県認知症対策室職員、若年性認知症コーディネーター  
認知症疾患医療センター兵庫中央病院医師、看護師  
きいてネット、ケアマネジャー、地域包括・高齢者支援センター相談員  
認知症地域支援推進員 延べ54名

○内容:若年性認知症の方の支援体制構築にむけた課題の抽出と方法

## 8. 認知症初期集中支援事業

目的: 認知症高齢者の方やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築するとともに、認知症地域支援推進員(相談受理事件数:659件)を配置し、医療・介護等の連携強化等において、地域における支援体制の構築と、認知症ケアの向上を図りました。

内容:

専門職による  
スクリーニング会議  
(=対象者の選定)  
チーム員会議  
(=支援計画の検討)  
を実施

【スクリーニング会議実施状況】 ※( )は前年度実績

会議 実施回数	相談経路			合計	新規支援 対象者
	もの忘れ 相談	ケアマネ ジャー	圏域支援 センター		
12回	68名	8名	0名	76名	9名(5名)

【認知症初期集中支援対象者の推移】

前年度継続	新規対象者数	終了者数	継続件数
4名	9名	9名	4名

## 9. もの忘れ相談(認知症専門医による専門相談)

対象者 認知症の不安・おそれのある方、その家族

日時 毎月第1・3木曜日 14:00~16:00

相談件数 66件(前年度 53件)

- ① 兵庫中央病院もの忘れ外来受診へつなぐ.....20件
- ② 担当医師の助言によりかかりつけ医での内服調整.....4件
- ③ 精神科の病院を紹介し受診.....3件
- ④ 介護認定を申請し介護保険サービスを導入.....2件
- ⑤ 支援センターと情報共有し地域のとしい場へ.....2件
- ⑥ その他(運動やつとしい場への参加継続等).....32件
- ⑦ 認知症初期集中支援チームへつなぐ.....3件

<相談結果>

終了	要経過観察	要精査	要医療	再相談
18	10	28	6	4

## 10. 認知症サポーター養成講座

※( )は前年度実績

団体数	学校	サロン	ふれあい協	民協	行政	区・自治会	企業	病院薬局	社協	事務局主催	合計
4	114	37	27	18	33	31	30	12	18	62	382(455)
											22(28)
											22(28)

◇受講者累計(21年度~): 489団体 11,287名

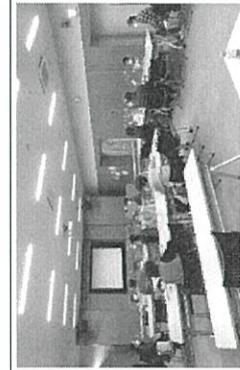
## 12. 認知症介護者交流会

目的: 認知症介護者の悩みや情報交換・交流の場づくり

対象者: 認知症の介護家族の方

日時: 毎月第2木曜日 / 開催数: 全11回

参加者: 延べ50名



## 11. 認知症キャラバン・メイト養成講座

認知症サポーター養成講座の講師役であるキャラバン・メイトの養成講座を伊丹市・猪名川町・宝塚市と共催で実施しました。

内容	参加者	参加者
認知症サポーターに伝えたいこと~認知症を理解する~	兵庫中央病院 認知症疾患医療センター センター長 山崎 浩 氏	50名 (うち 三田市 16名)
認知症サポーター養成講座の運営方法	認知症介護指導者 古川 美紀 氏	



### 13. 【拡充】介護予防普及啓発事業(市域対象事業)

身近な場所で、介護予防の知識や実践方法が学べるよう、地域の様々な団体・活動・集まりに保健・医療等専門職が出向き、介護予防(フレイル対策)講座を実施しました。

#### ◇講座メニュー

講座名	講師
① フレイル予防の食事について	栄養士
② カルシウムUPの食べ合わせとは	栄養士
③ かくれ塩食について知ろう	栄養士
④ オーラルフレイルの予防について	歯科衛生士

#### 《 選択 》

⑤ くすりの管理と飲み忘れについて	薬剤師
⑥ 運動して健康寿命を延ばそう	運動指導員
⑦ いきいき百歳体操をしよう	理学療法士+支援センター職員
⑧ 運動しながら脳トレしよう	作業療法士または運動指導員
⑨ 音楽で昔を振り返ってみよう	音楽療法士

#### 《 1つのみ選択可 》

⑩ ヨガでリラククス体操	ヨガインストラクター
⑪ アロマの力で認知機能アップ	アロマセラピスト

※講座は選択方式とし、1団体3講座まで申し込み可能



## フレイル予防教室 ご案内

フレイル予防の大きな柱は、  
運動・食生活・社会参加・人のつながりです。  
みんなと一緒に健康寿命を延ばしましょう!

## フレイルって?

高齢期における筋力や骨の密度が低下し、弱った状態のことです。健康と要介護状態の間であり、フレイルの状態のままにしておくと、要介護状態になる可能性が高まりますが、心掛けにより、健康状態を改善することができると言われています。

健康な状態をもち、いきいきと自分らしい生活を長く過ごしましょう!

フレイル予防は、  
まず、エビデンスと  
なんばく質の充足に  
注意し、口頭指導下の  
予防が重要です。

※3講座まで受講できます。講師経験により、履修が卒業になる場合があります。

※講座のご希望に添えない場合があります。予めご了承ください。

※履修を望まばいはいが違ふたときは、前後申込票裏面の申込み条件等をご確認ください。

### ☆ 受けたい講座が選べます ☆

< 5の表からお選びください >

★Aは必須講座です。

★1講座受講…Aの中から選んでください。

★2講座受講…A+Bの中から選んでください。  
(A+B+CまでとしてもOK)

★3講座受講…A+B+Cの中から選んでください。  
(A+B+CまでとしてもOK)

#### ◇実施講座数(82講座 延べ1,112名受講)

高齢者・地域包括支援センター各圏域	実施講座数
三田・三輪南	21
フラワータウン	16
ウッドイタウン・カルチャータウン	17
藍	10
三輪北・小野・高平	3
広野・本庄	15
合計	82

※ 別途、新型コロナウイルス感染拡大による、中止・延期・キャンセル (47講座)

# 介護サービスセンター 住民のみなさまに選ばれ、

## 頼られる事業所をめざします

\* 実施事業：訪問看護サービス事業(医療保険・介護保険)、高齢者ホームヘルプサービス事業(訪問介護)、障害者ホームヘルプサービス事業(居宅介護、行動援護、同行援護、移動支援)、高齢者デイサービス事業(通所介護)、身体障害者デイサービス事業(生活介護)、居宅介護支援事業(居宅介護支援)

### 介護サービスの提供を通して、 一人ひとりの地域での暮らしを支える

- ① 独自事業の企画
- ② 市内社会福祉法人等と連携した福祉(介護)の仕事魅力啓発・人材育成
- ③ 法人内情報共有の仕組み確立

#### 重点項目1

### 安定した運営体制の確保

- ④ 国施策・他事業所状況分析を常に情報収集し、仕組み・環境改善
- ⑤ 「社協ならではのサービス」像を伝達する媒体作成(リーフレット・ホームページ等)

#### 重点項目2

### (1) 成果

令和3年度よりスタートした第2次介護保険・障害福祉サービス等事業経営計画の推進は、「選ばれる・頼られる事業所づくり」「地域福祉との連動(社協が行う意義)」をテーマに事業を実施し、収益は全体で計画の目標を達成しました。

人材育成については市内社会福祉法人等と連携し、もともと皆さんにさんだの福祉(介護)の仕事の魅力を伝えるべく『みぢかいご』(身近+介護)へさんだの福祉・介護・魅力発信ホームページ～を作りました。

### (2) 課題と次年度に向けて

各事業で収支のばらつきがあり更なる経営の改善が課題です。引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら、サービスの質の向上に取り組んでまいります。

法人繰入金額(単位:円)	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	経営計画	決算 (当期資金収支差額相当額)	経営計画	決算 (当期資金収支差額相当額)	経営計画	決算 (当期資金収支差額相当額)
サービス名						
訪問看護	6,720,000	7,840,984	6,537,000	5,831,106	1,220,000	1,518,019
高齢者ホームヘルプ	3,510,000	4,726,829	3,316,000	8,673,109	5,849,000	10,019,945
障害者ホームヘルプ	5,700,000	10,732,138	5,936,000	5,780,381	12,629,000	12,770,100
高齢者デイサービス	3,945,000	△4,992,387	5,047,000	2,716,023	1,663,000	△2,238,866
居宅介護支援事業	1,952,000	2,519,837	1,738,000	589,368	1,239,000	779,353
合計	21,827,000	20,827,401	22,574,000	23,589,987	22,600,000	22,848,551

資金収支計算書の当期資金収支差額相当額を財政安定化積立金に積立を行った。

## 訪問看護サービス事業

在宅療養をされている小児から高齢者まで、様々な疾患に対応し、利用者本位で安心・安全な在宅療養が継続できるよう総合的に支援しました。新たな加算を取得し研修の機会を増やし、スタッフの知識と技術、ステーションの質の向上に努めています。新型コロナウイルス感染症については情報収集に努め、感染予防および対策に努めています。

### 1. さまざまな方への支援受け入れ

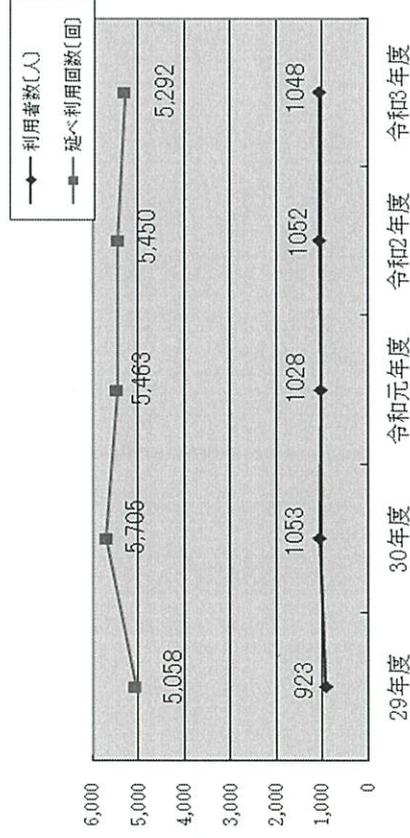
小児から高齢者まで、「さまざまな病気や状況においても対応できること」を大切に支援しています。  
(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	326	302	351	335	339	355	335	305	334	323	285	306	3,896
医療保険	145	95	100	115	117	127	120	127	119	108	103	120	1,396

### 2. 24時間緊急連絡支援体制

実利用者数: 40名 延べ利用件数: 55件

訪問看護利用者数と延べ利用回数



### 3. 職員の総合的な知識と技術の向上

ステーションの質と個人の知識・技術の向上を目指して研修への取組を強化しています。

- ◆ 定例会(月1回)
- ◆ 研修 (スタッフ各自が月に1度の研修を受けています)  
「新型コロナウイルスにおける在宅療養現場からのメッセージ」  
「がん看護実践者育成セミナー シリーズ」  
「その人らしさを引き出し、希望を支える ACP(アドバンスド・ケア・プランニング)を考える」  
「訪問看護における公的制度との関わりについて」  
「在宅ケアの場における防災対策」 等

## 高齢者デザイナー事業(指定通所介護・指定通所介護予防事業)

介護や支援が必要な方へ適切な介護サービスを提供し、レクリエーションや運動等を通じた心身の機能低下予防及び利用者間や地域のボランティアとの交流により充実した生活を送っていただくことを目指しました。また、医療的ケア等を必要とする利用者の受入れのために環境を整備するとともに、スタッフの知識・技術の習得に取り組みました。

利用者、関係機関への連絡調整により、延べ利用者数、一日平均利用者数、昨年度よりも伸びています。特に要介護1の方の利用が多くなっている状況ですが、要支援と要介護の重度の方の受け入れが減少しています。

収支状況では厳しい運営となっておりますので、業務改善(人件費・事業費の見直し)の取り組みを進めるとともに、生活相談員1名を職員育成担当に位置づけ、新任職員の育成、現場職員のサポートを心掛け、職員の定着に取り組んでまいります。

次年度は、社協が行う通所介護のあり方について検証し、ご利用者さまに満足いただけるサービス提供と収益改善に努めます。

### 1. 活動状況

利用者、家族の理解と協力を得ながら、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を進めました。また、総合福祉保健センターが予防接種会場となる中でご利用者への情報提供や接種の支援を行うことで、安心してご利用いただける環境づくりにもつながりました。

活動の制限がある中でしたが、毎月の製作活動には季節感を盛り込んだ作品づくりを提供し、ご利用者の笑顔を引き出す支援につながりました。

- ▶ 笑顔と意欲を引き出す活動を大切に、ご利用者同士のきずなも深まりました。



### 2. ボランティアとの連携

令和2年8月よりボランティアの受入れは中止していますが、鉢植えの朝顔を通じての交流や利用者の連絡帳袋の作成を通じて活動が生まれ、交流につながりました。

今後、各ボランティアの皆さまのご理解を得ながら、感染拡大の予防策を十分に講じることで安心して活動できる場の提供と共に利用者の活動の拡がりを作ることが求められています。

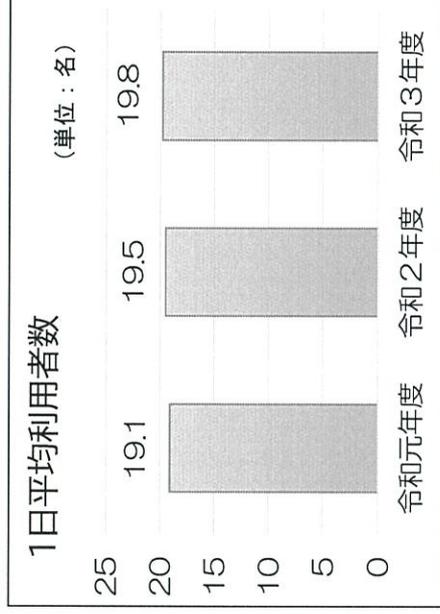
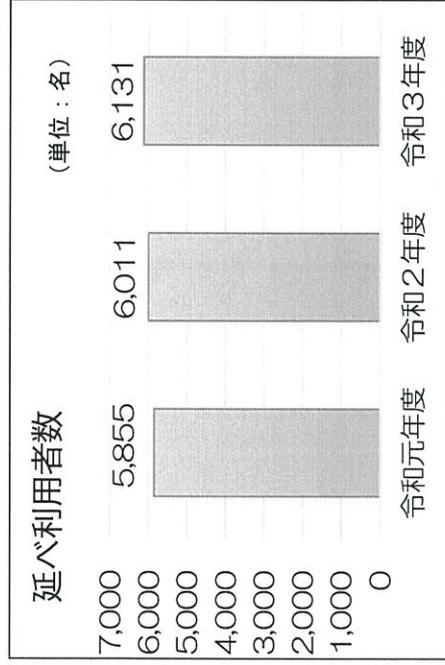
### 3. 情報発信・広報活動

デザイナーの魅力を伝えるツールとして、パンフレットの更新、ダイ通信「きらめき」を毎月発行し、利用者・家族、ケアマネジャーなどに発信しました。

発行部数:170部(毎月1回発行)、社協ホームページ掲載  
また、SNSを活用した取り組みとして、季節行事など日頃の活動をウェブサイトで情報発信を行いました。

## 令和元年～令和3年度 実績比較

	開所日数(日)	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数(名)	新規登録者数(名)
令和元年度	307	5,855	19.1	26
令和2年度	308	6,011	19.5	23
令和3年度	309	6,131	19.8	13



- ◀ コロナ禍において2年前と比較しても利用率の減少はみられず、食事、入浴サービスとともに、職員の間わりから生まれる活動プログラムや安心・安全のサービス提供体制が安定した利用につながりました。

新規利用者は伸びない状況でしたが、既存の利用者へは、追加利用やお休みされた日の振替利用のお声掛けをいたしました。また、居宅介護支援事業所へサービスご利用を働きかけました。

## 令和元年～令和3年度 利用登録者要介護度別比較表(単位:名)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
要支援1	5	8	6
要支援2	7	3	3
要介護1	28	32	27
要介護2	10	9	8
要介護3	6	9	10
要介護4	2	3	3
要介護5	6	7	3
合計	64	71	60

- ◀ 要支援1～要介護1の軽度利用者が60%と半数以上を占める状況です。居場所と役割、仲間づくりができる場として心身機能の維持、向上が期待されており、個別機能訓練利用者も増えています。

中度～重度の利用者はレスパイト入院やショートステイを利用しながらの利用も多く、欠席率が高くなるのが課題です。振替利用や利用日の追加など柔軟なサービス利用ができる提案を行っていきます。

地域で暮らす中で定期的に通う場があり、馴染みの人との関わりが持てることは、要介護の状態となっても求められており、その一助となるよう職員の創意工夫で安心・安全、満足できるサービスを提供していきます。

## 身体障害者デイサービス事業(生活介護事業:市受託事業)

障害のある方が、主体的に社会参加し生きがいを高め自立した生活を過ごせるよう、利用者の「個別性」を大切に一人ひとりの「尊厳」を護ることができるようデイサービス事業を実施しました。高齢者デイサービスと同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、利用者、家族の安心、安全を優先した事業実施に努めました。

### 1. 利用状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応については適時お知らせを配布し、利用者、家族の理解・協力を得ながらサービス提供を行いました。また、市内特別支援学校生徒の卒業後の進路として、事業所交流、現場実習の受け入れを行い、学校、相談支援専門員、市障害福祉課などと連携しながら生徒や家族が安心して進路決定ができるよう支援を行いました。

登録者29名のうち、3月末時点で施設入所支援利用の3名が利用自粛を継続されています。(施設サービスご利用者で複数施設の利用が禁止されているため)

### 2. 活動状況

コロナ禍において、ボランティアの受け入れや外出活動、調理活動、カラオケなどは、感染防止の観点から中止しているため、一人ひとりの思いに寄り添う活動を、小グループや個人活動を中心に提供しました。

野菜づくり、ピアノ練習、ゴミ拾いの清掃活動など様々な活動が生まれ、利用者自身が目標を持って心身機能の維持・向上に取り組みされました。

また、障害者の就労支援として、市内就労支援事業所と連携し実習受け入れを行い、活動の場を通じて経験を積み重ねることができるよう支援を行いました。

### 3. 心地よく、安心できる環境づくり

祝日に他事業所が休止することで、日中活動の場がない利用者を対象に、祝日受入れのルールづくりを行い、家族のレスパイトケアの支援につなげました。

医療的ケアを必要とする特別支援学校卒業生の受入れに向け、ハード面の環境整備に取り組みました。人員配置や活動プログラムの見直しを行っていき、より良い支援を提供できるよう努めました。

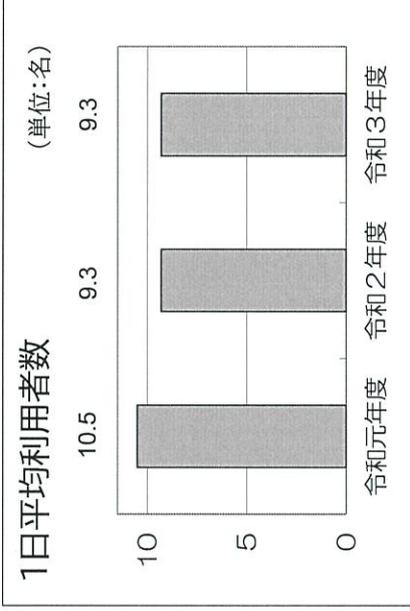
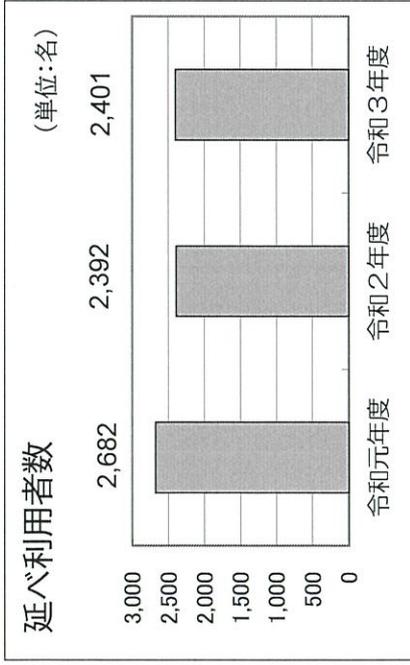
### 4. 職員の資質向上

利用者、家族の安心・安全のサービス提供につながるよう、毎月のカンファレンスでは、利用者支援の方向性を検討すると共に、職員から課題として聞かれる介護の知識・技術について学ぶ機会を設け、新任職員の育成と共に個々のスキルアップを行いました。

カンファレンス:毎月開催(継続ケース:48件)

## 令和元年～令和3年度 実績比較

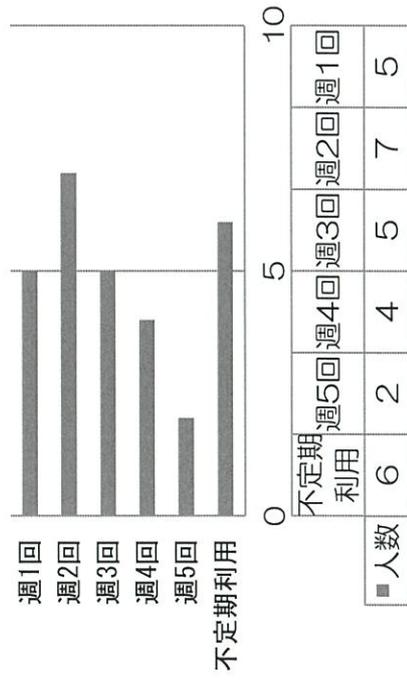
	開所日数(日)	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数(名)	新規登録者数(名)
令和元年度	256	2,682	10.5	4
令和2年度	256	2,392	9.3	4
令和3年度	257	2,401	9.3	0



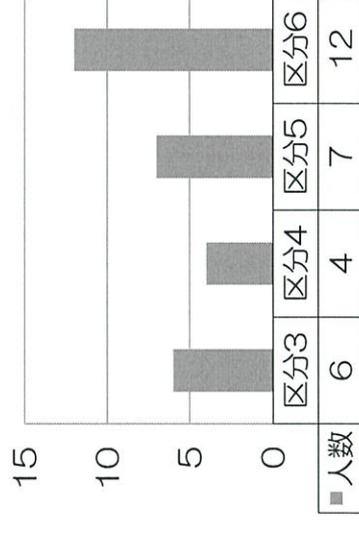
◀ 新型コロナウイルスの影響により、他施設利用者の複数施設利用自粛期間が長くなることで利用者の減少傾向が継続しています。

登録利用者について、祝日の利用を希望される方には臨時で利用できるようルールづくりを行い、利用率の向上に努めました。

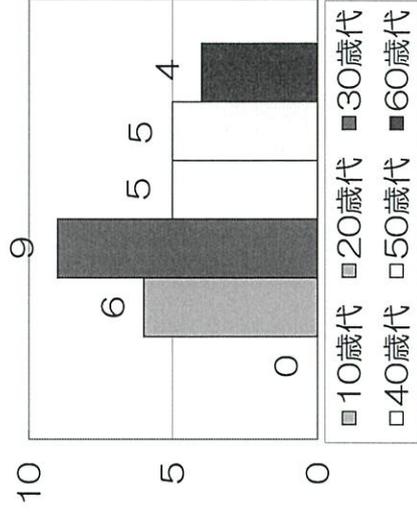
### 利用日数



### 利用者障害程度区分状況



### 年代別利用者数



## 高齢者ホームヘルプサービス事業(訪問介護、介護予防訪問介護相当事業)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う度重なる緊急事態宣言下の中、在宅生活の継続のため、利用者や家族に検温やマスク着用、換気などの協力を得て、ヘルパーの体調管理に留意しながらサービスを提供しました。訪問系サービス向け記録システム「ケアパレット」を導入したことにより、サービス提供記録や訪問指示等の情報共有を迅速に行うことができました。

### 1. 利用者の自立支援

短時間訪問の中でコミュニケーションを大切に、ニーズの高い生活援助サービスを限られた時間内で、ご利用者の自立支援を促しながらともに行うよう心がけました。

### 2. 安心、安全なサービス提供

安心、安全なサービスの提供に向け、定期的なモニタリングを心がけ、ご利用者の日常生活動作の低下予防のために適切なケアを工夫しました。

### 3. 職員の資質向上

定例会は新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から、書面配布、リモート研修や会場を分散したグループワークなど工夫して実施しました。その中で専門職としての接遇、職業倫理、法令順守を再確認し、知識と技術の研鑽に努めました。

## 活動実績比較 (令和元年度～令和3年度)

### 介護活動実績 (単位：時間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度	764.0	780.0	747.0	813.5	745.5	844.0	910.0	824.0	795.0	690.5	723.0	798.0	9,434.5
令和2年度	746.0	821.0	828.0	859.0	925.5	916.0	904.0	850.0	756.0	718.5	744.5	836.5	9,905.0
令和3年度	786.0	748.5	762.0	771.0	776.5	747.5	730.0	742.0	807.0	738.0	777.0	810.0	9,195.5

### 介護予防訪問介護相当活動実績 (単位：時間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度	308.5	313.0	279.0	308.5	292.0	235.0	255.5	237.5	245.0	211.0	210.0	225.5	3,120.5
令和2年度	202.0	195.0	212.0	214.0	214.5	206.0	226.5	215.0	231.0	208.0	218.5	246.0	2,588.5
令和3年度	243.0	233.0	245.0	266.0	256.0	258.0	243.5	238.0	240.5	208.0	205.0	246.0	2,882.0

### 介護度別ご利用者状況 (単位：名)

	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
令和元年度	370	357	413	184	151	36	47	1,558
令和2年度	308	270	404	177	173	46	20	1,398
令和3年度	369	296	361	226	139	52	25	1,468

## 障害者ホームヘルプサービス事業(居宅介護、同行援護、行動援護、移動介護支援事業)

高齢者ホームヘルプサービスと同様に、障害のある方が安心して暮らせるように、居宅介護(身体介護、家事援助、通院介助)、同行援護、行動援護、移動介護(ガイドヘルプ)の支援を行いました。

### 1. 個々のニーズや状態に対応した支援

- ◆ 個々のニーズ、ご家族のニーズに対応したサービスの提供を常に心がけ、複合的な課題を抱える親子の支援なども行いました。訪問先では、感染症対策を行いながらサービスを提供しました。度重なる緊急事態宣言発令の影響により、同行援護や移動支援のサービス提供が減少しました。
- ◆ 心に病を抱える障害のケースが多く、意欲関心を引き出すための声かけを行い、その日の体調等に合わせて支援しました。

### 障害福祉サービス利用実績 (移動支援含む) (単位:時間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年度	1,338.0	1,339.0	1,337.5	1,371.5	1,300.5	1,298.0	1,279.5	1,303.0	1,226.5	1,066.5	1,207.0	1,191.5	15,258.5
令和2年度	1,078.5	1,099.5	1,173.5	1,310.5	1,313.0	1,256.5	1,311.5	1,266.0	1,205.0	1,086.5	1,005.0	1,161.5	14,267.0
令和3年度	1,159.5	1,071.0	1,078.0	1,181.5	1,076.0	1,060.0	1,173.5	1,142.5	1,114.5	1,135.0	964.0	1,068.5	13,224.0

### 内部研修



- ▲ 定例会は、ソーシャルディスタンスを取るために複数の会場で小グループに分かれて「接遇・職業倫理・個人情報保護」、介護現場におけるハラスメント防止のための「ハラスメント」、「虐待をなくすために」等の研修を毎月実施しました。

## 居宅介護支援事業

今年度は5名体制から4名体制でのスタートとなりましたが、ケアマネジャー一人当たりの担当件数を増加し、事業所としての件数を減少させることなく推移しています。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、ターミナルの利用者の依頼の増加、単身高齢者の安心で生きる住まいの選択が施設になっている現状など安定して件数を維持することは難しい状況となっています。

介護適正化ケアプラン点検を外部講師により丁寧に行うことができ、新たな気づきとなりました。この気づきを受け下半期より利用者の自立支援に向けたケアプラン作成を意識し取り組んできました。

さらに来年度は、社協内のケアマネジャーとの連携を強め、社協としてのケアマネジャーの質の向上をより一層図ってまいります。

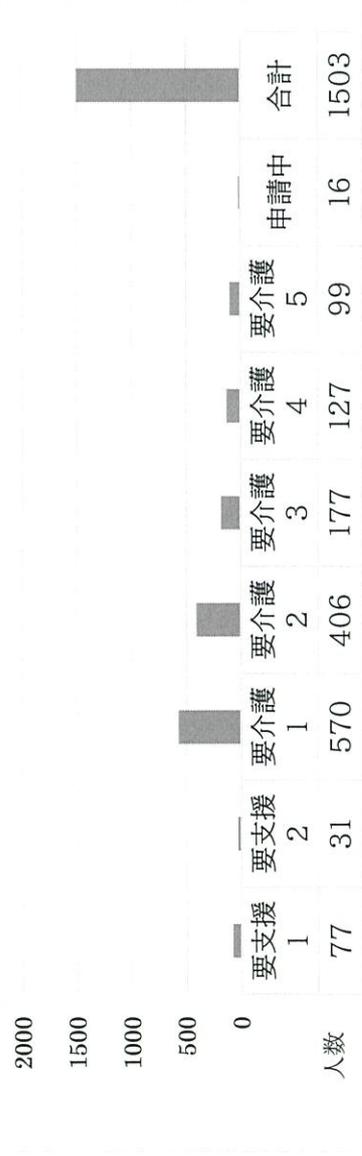
利用者の状況（給付管理件数）※申請含まず （単位：件）

令和3年3月末		新規		終了		令和4年3月末	
男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
47	80	21	44	31	42	37	82
計	127	計	65	計	73	計	119

月別給付数 ※申請含む

4月	125	5月	124	6月	126	7月	126	8月	129	9月	132	10月	124	11月	123	12月	130	1月	123	2月	124	3月	119		
合計	1,503	合計	1,503	合計	1,503	合計	1,503	合計	1,503	合計	1,503	合計	1,503	合計	1,503										

介護度別利用状況



## 1. 市内の事業所加算取得事業所とのネットワーク

### ※事業所加算取得要件

事業所加算取得要件の合同研修会は今年で4年目を迎えました  
が、新型コロナウイルス感染症の影響により参加が難しく、昨年度は、  
三田市内全ての事業所が集まる研修会は中止しました。

今年度は、コロナ禍による研修のあり方を模索するとともに、三田  
市は県内においてオンラインでの研修参加が少ない現状を受け、三田  
市内のケアマネジャーがオンライン研修に参加しやすくなることを目的  
とし、引き続き、介護支援専門員がつながり、相談できる関係づくりに  
向けてオンライン研修会を企画、実施しました。その中で、社協の事業  
所として中心的な役割を担うことができました。

○10事業所との打ち合わせ

4月7日(水)・6月11日(金)・9月10日(金) 12月2日(木)

○研修実施日 令和3年11月18日(木)14:00～16:00

参加人数 25名(三田市内のケアマネジャー)

実施内容 一部 基本的なZoomの使い方

二部 テーマごとによるグループディスカッション

## 2. 三田市介護給付適正化ケアプラン点検

三田市内の居宅介護支援事業所に対するケアプラン点検を受けまし  
た。

ケアマネジャーが作成するケアプランがケアマネジメントのプロセスを  
踏まえ、本人の「自立支援」に資する適切なケアプランとなっているかこ  
について、外部講師の元、助言を受けました。

実施日：令和3年7月29日(木)

令和3年8月20日(金)

## 3. 出張ふくし教室の開催

地域のみなさまに「基本的な介護サービスについて」実例を交えてわ  
かりやすくお伝えしています。地域ごとや参加される方の要望を伺い、  
丁寧に説明しています。今年度は、「さんだ生涯学習カレッジ」のシニア  
層の方に向けて説明しました。

実施日：令和3年9月13日(月)

内 容：「基本的な介護サービスについて」

# 兵庫県共同募金会 三田市共同募金委員会

## 令和3年度事業計画

急激な少子高齢化が進行し、また新型コロナウイルス感染症により日常生活、経済環境、経済活動等に甚大な影響を与えている状況の中、当会の中期計画である「第2次地域福祉推進計画」に基づき、“だれもが住みながら地域で安心して、生きがいを持って生活できるまち”の実現に不可欠な「つながり」「見守り」「支え合い」の活性化に重点を置いた共同募金配分金事業を推進するための募金運動を実施します。

## 募金実績

◆令和3年度実績 7,532,176 円【前年度実績 7,800,078 円】  
 (目標額 8,000,000 円 達成率 94.2%)

戸別募金	(単位:円)		
	令和3年度(A)	令和2年度(B)	(A)-(B)
戸別募金	5,353,945	5,353,279	666
法人募金	733,664	772,659	△38,995
学校募金	397,255	460,741	△63,486
個人募金	184,270	190,900	△6,630
職域募金	421,606	497,898	△76,292
募金箱・街頭募金	203,093	286,944	△83,851
その他	127,775	138,834	△11,059
募金百貨店	110,568	98,823	11,745

◆募金百貨店プロジェクト協力店 12 件(新規3件)  
 ◆募金付き自動販売機協力者 7 件(新規1件)

## (1) 成果

コロナ禍が長期化する中、街頭募金や企業への訪問による募金依頼は中止しました。また、経済活動が停滞する中、法人・学校・職域募金の募金実績も昨年度に比べ減少しています。そのような状況の中、一方では区・自治会を通じた戸別募金や、市内事業所やサロン、各団体に募金箱の設置協力をいただくなど、多くの方から温かい思いやりのお気持ちと募金への協力をいただくことができました。

## (2) 課題と次年度に向けて

募金が「どう使われているのか」知ってもらいやすいこと、募金に「協力」してもらい、その情報発信が課題となっています。わかりやすく見やすいPR活動に向けて、募金活動がひろがるように注力するとともに、募金百貨店プロジェクトや募金付き自動販売機、インターネット募金による新たな協力者を増やしていくことができればよいと思っております。